

## 「修習ガイドブックアンケート」結果と修習ガイドブック活用に関する提言

研修委員会

研修委員会では、「修習技術者のための修習ガイドブック（第3版）」（以下、「修習ガイドブック」と略す）活用の充実に向けた検討の基礎資料とすべく、2022年7月に修習ガイドブックの活用実態等に関するアンケート調査を実施しました。日本技術士会会員及び一般の方々から、約480の回答を頂戴いたしました。調査に御協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

研修委員会では、このアンケート結果を受けて、修習ガイドブック活用のさらなる充実へ向けた活動に取り組んでまいります。

### 1. アンケート結果の総括

近年、IPD（Initial Professional Development, 「初期専門能力開発」の略語）に対する重要性への認識が高まってきており、修習ガイドブックは、IPDの考え方を取り入れていることから、その普及と定着が期待されています。しかし、一方で活用の実態が不透明との意見もあり、また、上記のようなIPDに対する社会情勢を踏まえて、研修委員会においてアンケートを実施したものです。

アンケート結果の全体概要は、巻末の【アンケート結果概要】に整理していますが、結果の総括は以下のとおりです。

#### （1）回答属性等

回答者属性：男性 93%と偏りがあるが、年齢は多様であり、支援対象者層（技術士資格未取得）が30%、技術士層が70%なので、技術士層の大部分が支援組織外であり企業所属が82%と圧倒的に多い。

⇒修習技術者支援に直接関係ない層が多く、これらの層にとって修習支援活動、ガイドブックの内容が周知、浸透されていないことが窺われる。

#### （2）支援への満足度

支援活動に参加した修習技術者の満足度は概ね高い。

#### （3）普及・活用状況

修習技術者への支援活動や修習ガイドブックの内容を個人として理解していても、所属組織に浸透するに至っていないため、普及促進・活用されていない状況にある。

⇒個人での活用に限界 → 組織に対するPR活動が必要 → 技術士育成に前向きな組織（企業）をロールモデルとして展開するなどが考えられる。

#### （4）有効性評価

修習ガイドブック自体の有効性は評価されている。

⇒組織への浸透が課題

## (5) IPD の認知度

IPD に対する認知度が低く（知らないが 49%）、文科省が積極的に推進しようとしている事実についても知らないが半分以上を占める。

⇒アンケートの結果からは、ガイドブックの内容自体より、IPD/修習支援活動も含めた存在自体が十分に周知されていないこと、特に所属組織レベルで浸透していない実態が窺われる。

## 2. 自由記述からの意見抽出

自由記述から、修習ガイドブック内容の改善や IPD/修習支援活動のヒントとなりうるものを中心にピックアップしたものを、以下に示します。

### (1) ガイドブック広報・普及活動について

- ・技術士会報誌やメールマガジンでの周知案内やパンフレット・リーフレットの配布
- ・業界団体（CPD 協議会参画団体など）を通じて会員企業に URL 入りのメールを送付
- ・協定・登録を行っている企業内技術士会や大学技術士会との連携
- ・学生の段階からや企業内で修習ガイドブックの存在や活用を推奨、教育に活用
- ・一次合格者全員にガイドブックを配布、あるいは SNS 等のツールによる周知
- ・学生向けの教材/出版物として発行
- ・活用に向けた説明会・講習会の開催、県技術士会開催のセミナーでの活用など
- ・部門別に活用事例や意見交換を実施
- ・コンテンツについて、技術者倫理同様、CPD 必須の項目とする
- ・普及・活用へのインセンティブを設ける
- ・技術士そのものの認知アップ、修習技術者自体に社会的・実務的付加価値を付与
- ・ガイドブックのコンテンツを二次面接試験での質問項目に加える。

### (2) ガイドブックの内容に関して

- ・技術士会の HP にコンテンツ化して、ポイントをわかりやすく解説・動画説明など
- ・要約版の作成、部門別要約の作成
- ・改訂の継続（環境変化に対応したアップデート）
- ・中堅エンジニアにも配布できる内容とする
- ・わかりやすさの向上、ページを減らす、概要版作成、論文の書き方など二次試験対策を記載、全体構成を工夫、参照しやすい、資料の配色等への工夫、最新情報への更新
- ・一次合格から二次試験への道筋を明示、技術士試験指導に特化
- ・指導者、支援者へのアドバイスの充実、修習技術者の修習実践につながる内容、技術士になるための心構えを記載

### (3) 活用方法について

- ・若い方が惑わずに技術士登録に向けて、計画的に取り組めるツールとしての活用
- ・試験対策としての活用、大学の教科書として活用
- ・組織での活用を促進、そのための説明会開催

#### (4) 修習支援活動/IPD について

- ・座学のみでは、専門技術能力開発には不十分。今後、技術講習会等での実践的な習得、指導者（技術士）からの指導などを取り入れ、能力開発を進める。
- ・技術士 1 次試験は、経験年数を詰めるためのものでしかなく資格存在の意味が薄い。単に 2 次試験受験を早めるためだけの“道具”になっている感が深い。
- ・技術士会としての研修の目的、実行計画等の基本的事項のフレームの再構築、如何に修習活動を継続していくかの仕組み作りが必要。
- ・修習技術者の修習活動については上長が責任をもって計画立案が必要。一方、計画は立案がするが、早々に試験対策が優先され、履行しきれないケースが多い（試験対策も含めた位置づけの整理必要）。
- ・修習技術者が求めているニーズに対する理解度向上、修習技術者支援者の指導実務経験充実による理解度向上が課題（JABEE 認定プログラムの教員でも、修習支援活動を理解して講義しているのは少数）。
- ・特に地方在住者の場合、時間と経費の問題で修習活動の実施が難しい。修習ガイドブックを活用して自律して修習できる若手技術者は少なく、その理解と実践のためには技術者（技術士）によるサポート必要。

### 3. 修習ガイドブック活用促進に向けた提言

アンケート結果より、支援活動や修習ガイドラインの有効性は高く、ガイドラインに記載されている内容も充実していることが伺われます。一方、その認知度が低く、十分活用できていないことやガイドラインが少しわかりにくい面があることなどの課題が明らかとなりました。アンケート結果をもとに、修習ガイドブック活用促進に向けて以下のことを提言し、活動に取り入れていきます。

#### 【提言 1】 広報・普及活動の一層の強化

母体である、技術士会 HP からガイドブックへのわかりやすい誘導やメールマガジンのような媒体を積極的に活用した広報、教育機関や各種関連団体と連携による広報（リンク、活用依頼など）、各部門や団体におけるこれまでの活用好事例を蓄積して、HP において情報発信することにより、ガイドラインの有効性を示すことが望まれる。

#### 【提言 2】 ガイドブック活用促進策の展開

大学や高専などの教育機関における教科書としてや技術士二次試験対策の参考書としての活用のほか活用に対してのインセンティブを設定することによる活用促進策が望まれる。

上記のような活用先事例の積極的な広報（提言 1）のほか、教育機関に対する活用の働きかけも有効であると考えられる。

#### 【提言 3】 記載内容の充実や工夫

修習活動事例の紹介のようなより実践的活用事例や指導者・支援者へのアドバイス、指導事例等記載内容を充実することによって、活用シーンを増やす。また、要約版や動画（動画解説の活用）の作成・活用、IT ツールと連携（例えば技術士会の HP へのコンテンツ化等）するなどのわかりやすくする工夫が望まれる。

## 【アンケート結果】

### <調査方法等>

(1) 実施期間： 2022年6月23日(木)～7月7日(木)

(2) 実施方法

①日本技術士会会員には、同報メールを発送し、同メール添付に記載した URL (会員向け HP の「お知らせ」に掲載) から回答。

②一般の方(日本技術士会会員以外)は、日本技術士会会員からの転送により会員向けメールに記載した URL から回答

(3) 回答数

回答総数は 479 名

### <設問と回答>

#### 【属性】

- 属性①：男性が多く、男性約 93%、女性 5%
- 属性②：20 歳・30 歳代約 10%、40 歳代約 22%、50 歳代 26%、60 歳代以上 32%
- 属性③：技術士第一次試験合格者 22%、JABEE 課程修了者 4%、技術士第一次試験受験者 3%、技術士会関係者(修習支援組織) 8%、技術士会関係者(修習支援組織外) 39%、技術士会関係者以外の技術士 23%
- 属性④：企業 82%、公的機関 6%、大学等教育機関 1%、自営 8%、学生 0.2%、その他 2%

#### 1. あなたの性別を教えてください

[詳細](#)

● 男性	446
● 女性	25
● 無回答	7

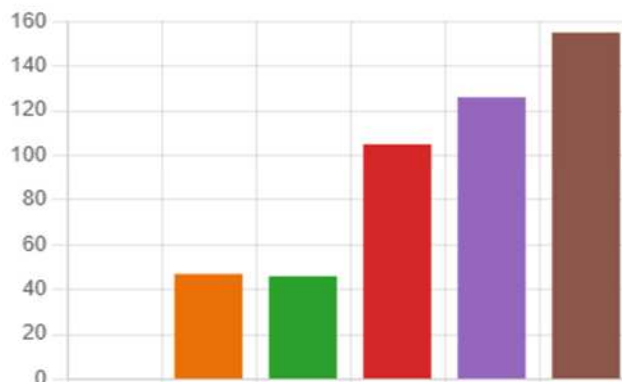


#### 2. あなたの年齢を教えてください

[詳細](#)

[インサイト](#)

● 10代	0
● 20代	47
● 30代	46
● 40代	105
● 50代	126
● 60代以上	155

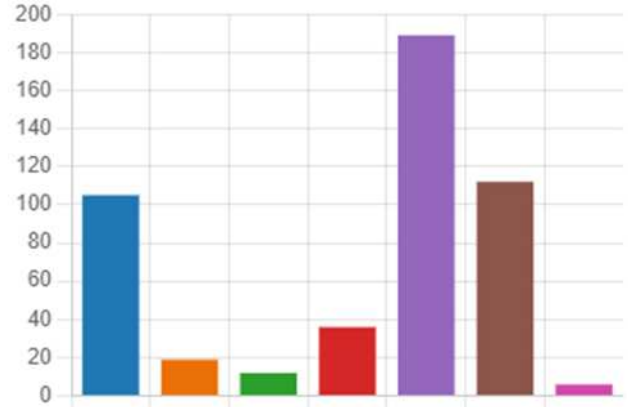


### 3. あなたは次のうち、どれに該当しますか

[詳細](#)

[インサイト](#)

● 技術士第一次試験合格者	105
● JABEE課程修了者	19
● 技術士第一次試験受験生	12
● 技術士会関係者（修習支援組織）	36
● 技術士会関係者（修習支援組織...）	189
● 技術士会関係者以外の技術士	112
● その他	6

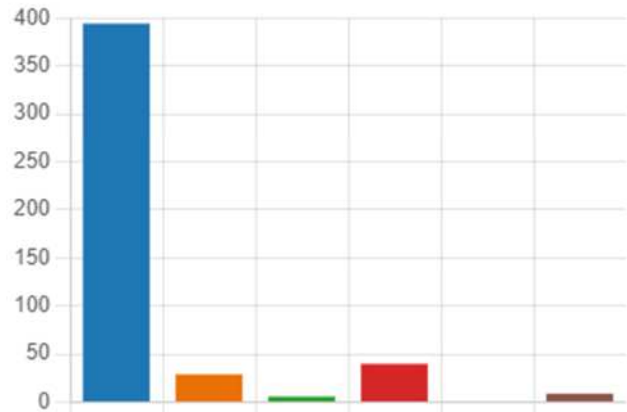


### 4. あなたの所属を教えてください

[詳細](#)

[インサイト](#)

● 企業	394
● 公的機関	29
● 大学等教育機関	6
● 自営（独立技術士含む）	40
● 学生	1
● その他	9



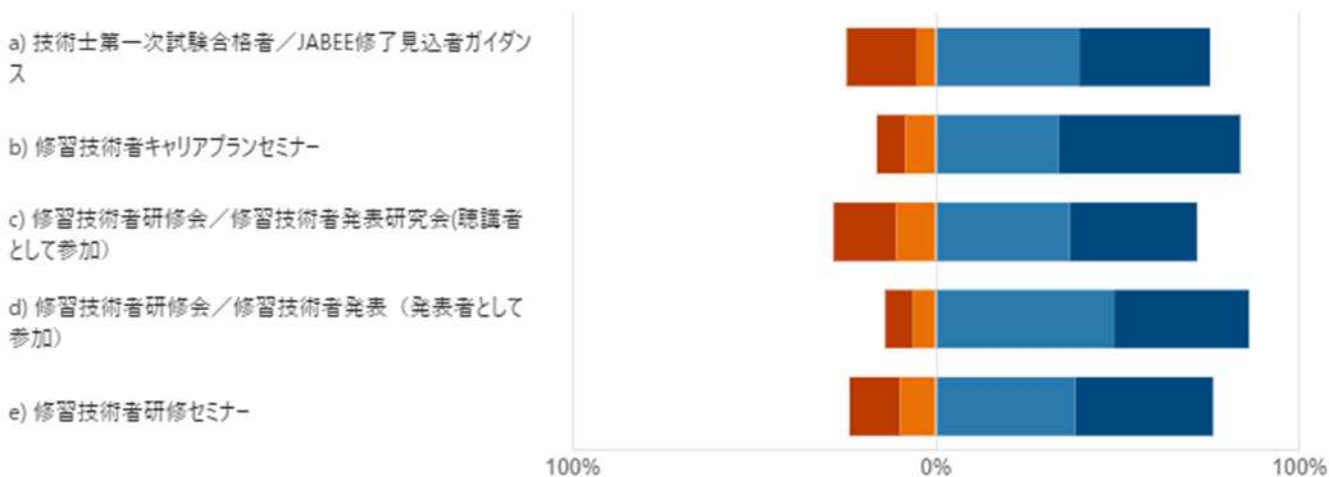
### 【修習技術者支援活動について】

- 修習技術者支援活動全般に「知っているが参加は検討しない」や「知らない」との回答が多い。
- 「技術士第一次試験合格者/JABEE 終了見込者ガイダンス」への参加が最も多く、次いで「修習技術者研修会/修習技術者発表研究会」への聴講者としての参加が多い。
- 「修習技術者キャリアアップセミナー」への参加が最も少なく、「知らない」との回答が多い。
- 各支援活動への参加者の内容に対する満足度は高い。

### 5. 修習技術者支援活動a)～e)についてそれぞれ教えてください。

#### 詳細

■ 参加したことがある ■ 参加を検討したい ■ 知っているが参加は検討していない ■ 知らない



### 6. 質問5.で「a) 技術士第一次試験合格者/JABEE 終了見込者ガイダンス」を「参加したことがある」と回答した方、内容についていかがでしたでしょうか

#### 詳細

● 満足	50
● やや満足	38
● 不満	5
● その他	4



### 7. 質問5.で「b) 修習技術者キャリアアップセミナー」を「参加したことがある」と回答した方、内容についていかがでしたでしょうか

#### 詳細

● 満足	25
● やや満足	13
● 不満	3
● その他	6



8. 質問5で「c) 修習技術者研修会／修習技術者発表研究会」を「参加したことがある」と回答した方、内容についていかがでしたでしょうか

[詳細](#)

● 満足	50
● やや満足	32
● 不満	5
● その他	3



9. 質問5で「d) 修習技術者研修会／修習技術者発表」を「参加したことがある」と回答した方、内容についていかがでしたでしょうか

[詳細](#)

● 満足	31
● やや満足	17
● 不満	3
● その他	5



10. 質問5で「e) 修習技術者研修セミナー」を「参加したことがある」と回答した方、内容についていかがでしたでしょうか

[詳細](#)

● 満足	48
● やや満足	20
● 不満	3
● その他	4

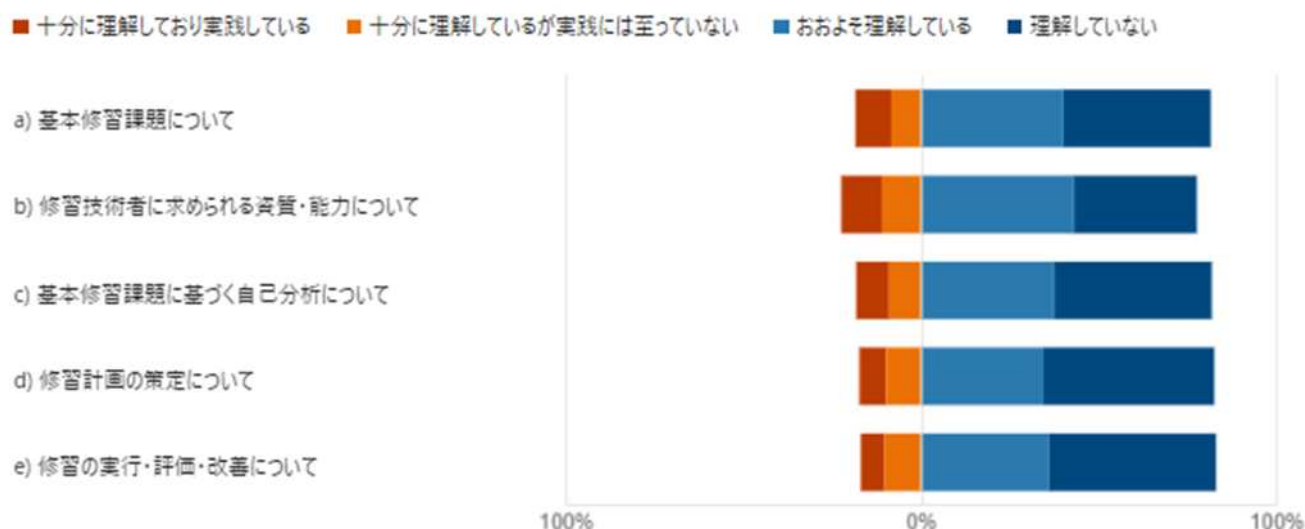


### 【資格取得に向けた修習活動の実態】

- 各項目において「十分理解し実践している」との回答が少ない。また、「理解していない」との回答が多い。
- 「修習計画の策定」や「修習の実行・評価・改善」への理解度が他の項目に対して相対的に低くなっている。

### 11. 修習技術者が実施している「技術士資格取得に向けた修習活動」の実態について教えてください

[詳細](#)



### 12. 質問 11 「修習技術者が実施している実態について」の回答に対する理由

#### 主な回答理由

- ・活動自体を知らない。(40)／よく理解できていない(34)
- ・支援する機会がない(22)／対象となる修習技術者がいない(8)／修習活動を実施していない(12)
- ・試験対策は実施しているが仕事で活かすまでには至っていない。(3)
- ・メリットが感じられない(12)
- ・時間がない(4)

#### 【十分理解している方の回答】

- ・必要である／役に立った(8)
- ・自己啓発の糧として活用(7)／技術士の試験勉強／ガイドブックを読んだ(11)
- ・修習技術者として指導している(15)
- ・全てにわたっての活動には至っていない(4)
- ・技術士会の修習活動に参加している(6)

#### 【その他回答】

- 専門技術能力では座学のみ開発であり、現状不十分である。今後、技術講習会での習得と指導者(技術士)からの意見を求めるなど、能力開発を進める。
- 技術士1次試験は、経験年数を詰めるためのものでしかなく資格存在の意味が薄い。単に2次試験受



験を早めるためだけの” 道具” になっている感が深い。

- 技術士会としての研修の目的、実行計画等の基本的事項のフレームが脆弱
- 如何に修習活動を継続していくかの仕組み作りが必要である。
- JABEE 認定プログラムの教員でも、それを理解して講義しているのは少数。
- 修習技術者の修習活動については上長が責任をもって計画を立てている。
- 修習計画は立案がするが、早々に試験対策に向けての作業が優先され、立案履行しきれないケースが多い。
- 修習技術者が求めているニーズに対して理解が不足しているとともに、修習技術者支援者の指導実務経験不足による理解度が相互に乖離していると思われるため。
- 修習活動の実施が難しい（遠方であり、時間と経費が問題）

### 【修習ガイドブックの認知】

●個人では「知っている」、「知らない」との回答が概ね二分している。所属組織で認知度は低く、「ほとんど知られていない」との回答が 80%を超えている。

#### 13. あなたご自身は「修習ガイドブック」を知っていますか

[詳細](#)

[インサイト](#)

- 知っている 236
- 知らない 243



#### 14. あなたの所属組織は「修習ガイドブック」を知っていますか

[詳細](#)

[インサイト](#)

- 十分認知されている（8割以上） 18
- ある程度認知されている（5割程度） 73
- ほとんど知られていない（2割以下） 388



### 【修習ガイドブックの活用と有効性】

- 所属組織での活用度は低く、「ほとんど活用されていない」との回答が88%となっている。
- また、「きわめて有効である」、「有効である」との回答が44%となっている。一方、「有効でない」との回答が33%となっている。

#### 15. あなたの所属組織において「修習ガイドブック」の活用状況を教えてください

[詳細](#)

[インサイト](#)

- 十分に活用されている（8割以上） 9
- ある程度活用されている（5割程度） 48
- ほとんど活用されていない（2割以...



#### 16. 「修習ガイドブック」の有効性について教えてください

[詳細](#)

[インサイト](#)

- きわめて有効である 41
- 有効である 170
- やや有効である 110
- ほとんど有効ではない 158



## 17. 質問 16. 「修習ガイドブックの有効性について」の回答の理由

### 【有効／きわめて有効の回答者理由】

- ・計画的な修習ができる(26)
- ・初期専門能力開発に資する(20)
- ・考え方や技術士の基本が明確(40)
- ・大学、研修、技術士取得の教材として適切(42)
- ・よくまとまっている／わかりやすい(12)
- ・強制力がないため、実践が伴っていない
- ・その他回答
  - 異業種の技術者と連携を協議する際のフレームワークとして活用
  - 第1版～3版と技術者の成長の基本は変わらず、IEAや文科省の動向に即して改訂されてきていることが評価できる
  - 修習の実施方法について、ある程度の事例が紹介されており、有効である(2)。
  - 詳しく記載されているのはよいが、ボリュームが多いた理解することに時間がかかる。
  - 修習ガイドブックを活用して自律して修習できる若手技術者は少なく、修習ガイドブックの内容を理解し実践するには、相談できる技術者が必要である
  - 良いものであっても、活用されないと勿体ない。

### 【やや有効の回答者理由】

- ・大学、研修、技術士取得の教材として適切(3)
  - ・実務への適用が難しい(4)
  - ・実態に合っていない(3)
  - ・わかりづらい(2)

### 【ほとんど有効でないの回答者理由】

- ・知らない、理解していない、活用されていない(116)

## 【修習ガイドブックの普及活動】

●所属組織において、「普及促進されていない」との回答が最も多く、80%を占めている。

### 19. 所属組織における「修習ガイドブック」の普及活動について教えてください

詳細

インサイト

● 普及が推進されている	28
● 積極的に普及推進されていない	69
● 普及推進されていない	382



### 20. 質問 19 の「所属組織における「修習ガイドブック」の普及」に対する回答の理由をご記入ください

#### 【普及が推進されているとの回答の理由】

- ・修習技術者支援委員会で紹介している
- ・事務局や HP で紹介
- ・所属企業にて紹介や活用 (16)

#### 【積極的に普及推進されていない／普及推進されていないとの回答理由】

- ・存在を知らない (135)
- ・企業内の勉強会等で運用していない／企業に独自の資料がある (24)
- ・理解不足 (19)
- ・特に困らない／必要性を感じない (25)
- ・技術士 (or 修習技術者) が少ない／機会がない (100)
- ・(時間的ほか) 余裕がない (12)
- ・内容が分厚い／使いにくい (3)
- ・手軽に入手できない
- ・その他回答
  - 技術士会のメールでガイドブックの案内がなく、知る術がないから。
  - 小規模の事業所では、技術士になった人が、技術士会のホームページを読むか、メールを受け取るかで存在を知るしかないため。
  - 技術士が低級なのか、修習技術士が高級なのかはわからないが、もっと修習技術士を優遇しても良いのではないか。
  - 実務への応用に対しより具体性を持たせた方が活用範囲が広がると思います。
  - 認知度と最新の知見として活用するには更新頻度が少ないことが要因と思います。
  - 技術士会として WEB 研修などを行っているが、一般的に技術者に知れ渡っているとは言い難いため。

## 21. 「修習ガイドブック」の今後の普及策についてご意見・ご要望をお聞かせください

### ① 広報（普及活動）全般に対する要望

- ・関係者への周知(28)
- ・技術士会のHPにコンテンツ化して、ポイントをわかりやすく解説・動画説明など(11)
- ・技術士会報誌やメールマガジンでの周知案内やパンフレット・リーフレットの配布
- ・業界団体（CPD協議会参画団体など）を通じて会員企業にURL入りのメールを送るなど、広報
- ・協定・登録を行っている企業内技術士会や大学技術士会との連携

### ② 普及策としての教育に関する要望

- ・学生の段階からや企業内で修習ガイドブックの存在や活用を教育、教育に活用（10）
- ・一次合格者全員にガイドブックを配布（4）一次合格者への周知、SNSで広報

### ③ 普及策としての「出版」に関する要望

- ・学生向けの教材／出版物として発行(4)
- ・要約版の作成、わかりやすく要約(9)部門別などの作成

### ④ 普及策としての「説明会やセミナー開催」に関する要望

- ・活用講習会の開催(7) 県技術士会開催のセミナーでの活用など
- ・あらゆる機会を通じて説明会を開催

### ⑤ その他

- ・部門別に活用事例や意見交換を行う
- ・技術者倫理と同じく、CPD必須の項目とすべき
- ・普及へのインセンティブ
- ・技術士そのものの認知アップ（2）
- ・修習技術者自体に社会的・実務的付加価値を与える必要がある
- ・面接時の質問に加える。

## 22. 「修習ガイドブック」へのご要望、期待していることなどをお聞かせください

### ① 要望全般

- ・アプリでIPDの受講証明とトータルの受講時間がわかるようにしてほしい。
- ・インセンティブの付与
- ・改訂の継続(9)

### ② 記載内容について

- ・中堅エンジニアにも配布できる内容に
- ・わかりやすさの向上、ページを減らす、概要版作成(5)、論文の書き方など二次試験対策を記載、全体構成を工夫、参照しやすい(5)、資料の配色等への工夫、最新情報への更新
- ・一次合格から二次試験への道筋を明示、技術士試験指導に特化する
- ・指導者、支援者へのアドバイスの充実(2)、修習技術者の修習実践につながる内容（2）、技術士になるための心構えを記載、指針
- ・内容の充実(2)

### ③活用方法について

- ・若い方が問わずに技術士登録に向けて、計画的に取り組めるツールとしての活用
- ・試験対策としての活用 (5)、大学の教科書として活用(2)
- ・組織での活用を促進、そのための説明会開催 (2)

### ④広報・普及について

- ・普及策の公開
- ・大学・教育機関へのアピール(4)
- ・今後の技術士補の扱いと連動する必要がある、まずは技術士への浸透、理解 (2)。技術士取得への道しるべとしての普及、
- ・入手方法の周知
- ・技術士会内部だけでなく、広く広報(7)

### 【IPDの認知度】

- IPDを「知らない」との回答が49%を占めており、「内容はよく知らないが語句はみた」との回答を合わせると79%となる。
- 文部科学省での積極的な検討を「知っている」トシボ回答が48%を占めている。

#### 23. 修習ガイドブックにも記載されている「IPD」の認知度について教えてください

[詳細](#)

[インサイト](#)

● 内容もある程度知っている	102
● 内容はよく知らないが語句は見た(...	142
● 知らない	235



#### 24. 前問で「IPDの内容もある程度知っている」「IPDの内容はよく知らないが語句は見た(聞いた)ことがある」と回答された方にお聞きします。IPDは文部科学省が積極的に検討しようとしていることを知っていますか

[詳細](#)

● 知っている	117
● 知らない	127

